



増渕 稔

日本証券金融
取締役会長



わが故郷の記

私は日本銀行に36年余り勤務しましたが、振り返ってみて懐かしく思い起こされるのは、支店長として勤務した鹿児島と大阪での毎日のことです。それぞれ1年半程度のごく短い期間ではありましたが、たくさんの良い思い出をつくることができ、私にとって「わが故郷」と思える場所となっています。

上の写真は、鹿児島支店長時代の1988年5月に、屋久島を訪れた際のスナップです。屋久島といえば縄文杉や宮之浦岳が有名ですが、この写真の背景となっている「千尋の滝」と



屋久島にて

一枚岩の花崗岩の圧倒的な迫力に魅了され、日々の仕事やその他もろもろのことがすべて頭から消し飛んでいく思いを味わいました。屋久島は世界遺産にも登録されましたが、あの雄大な自然の景観は、いつまでもそのままであってほしいと願っています。



大阪大学にて講演

下の写真は、大阪を離任する直前の2000年6月、大阪大学において、

日本銀行と金融政策についての講演を行った際のもので。大阪勤務の時代には、京都大学や大阪市立大学などでも学生相手の講演を行う機会を与えられました。私自身、学生のころから教育者としての生き方に憧れを抱いておりましたが、実際には、およそ教育とは縁遠い仕事となり、生業として人生の大部分を過ごしてきました。

しかし、支店長として勤務したおかげで、多くの学生と接する機会を得たことは、誠に望外の幸福でした。もはや私自身が教育者として教壇に立つことは望むべくもありませんが、日銀退職後、縁あって国際基督教大学と東洋英和女学院という二つの学校法人で、理事・評議員という役割を与えられ、今日に至っています。このようにして、今現在学校教育とかかわりのある役割を担っているのも、どこかで大きな力が働いた結果であり、誠に不思議な巡り合わせと感じています。